

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
<http://www.city.akita.akita.jp/>

市長のほっぺコラム

市長 佐竹敬久



春の足音

今回の合併に伴い、先月六日には河辺・雄和両地区において市議会議員の増員選挙が行われ四名の秋田市の発展と地域の振興にご尽力していただくことを期待しております。

ひとくちに春の足音と言っても、人それぞれ感じ方が異なるものでしょう。中でも、心もち和らいだように感じられる日差し、鋭さがなくなり丸みを帯びた軒のつららなど、自然界の現象が代表的なものではないでしょうか。加えて、春夏秋冬が明瞭な日本では、季節の移り変わりを楽しもうとする趣が街角で目につき、暮らしの中にも生きています。

いつも食べ物のお話で恐縮ですが、私は小さいころから「うぐいす餅」「さくら餅」「かしわ餅」と、街の菓子屋さんに並ぶ春の「餅シリーズ」に目がありませんでした。お酒もそこそこに嗜みますので、甘辛両刀遣いということになります。

ところで、私はこれまで、黄緑色をしている「うぐいす餅」の由来は、鳥のウグイスの色からきていると思



うぐいす餅にさくら餅...。春はもうすぐです

いこんでいました。しかし、ウグイスの鳴き声は聞いたことがあるものの、ウグイスを間近で見たことはなく、雑学大家をめざす私としては気になることこのうえなしです。

そこで調べてみました。定かではないものの、昔、「ホーホケキヨ」というウグイスの声を聞いた人がその姿を探すと、たまたま「メジロ」が居合わせ、それをウグイスと勘違いし、メジロの色をウグイス色と言うようになったとのこと。

うぐいす餅を色の面から正確にとらえると「めじろ餅」となります。

しかし、世の中何もかも正確である必要はなく、勘違いをひとつの文化にしてしまう日本人の寛容な精神風土や自然を愛でる心の深さなどは日本人の優れた資質だと思います。

国際化という錦の御旗のもとに、勝ち組が負け組を下に置くアメリカ流の競争社会の導入が、あたかも唯一無比の日本の再生の道のように言われ、また自己決定・自己責任の社会だけが望ましい未来のように語られる時代に入りました。これらは、現在の日本の状況下では必ずしも否定されるものではありません。

ただ、このようなことだけで二十世紀の日本社会を展望するというのは、はなはだ寂しい限りです。

切磋琢磨しながらも、勝ち組は負け組を思いやる心の広さや、協調・互助という日本の柔らかな精神風土も大切にしながら新しい社会を模索する必要があると思われま

す。ところで、ウグイスという鳥は甘いものも好物なんだそうです。



ゴールまであと少し。がんばれ！



スペシャル オリンピックス 秋田なまはげ トーチラン

熱い思いを みんなでリレー！

二月二十六日から三月五日まで長野県で開催されているスペシャルオリンピックス冬季世界大会を前に、二月十三日、秋田でもその聖火リレー「なまはげトーチラン」が行われました。

スペシャルオリンピックスは、知的発達障害のある人たちの自立と社会参加をサポートする国際的なスポーツ組織。通常のオリンピックと同様、四年に一度、世界大会が開かれています。ただし、これはタイムや記録を競うものではありません。参加者全員が表彰を受け、個人の努力が評価されるという大会です。

秋田なまはげトーチランには、障害のある人たちが聖火ランナーとして百二人、伴走者約七百人、ボランティア約三百人が参加。アテネ五輪陸上出場の伊藤友広選手、手内外村出身やなまはげも一緒に走り盛り上げてくれました。

アルヴェから山王中学校まで、沿道の大声援を受けながら繰り広げられた聖火リレー。みんなの「熱い思い」もすっかりとリレーされたようです。



スギッチ情報局

あれは44年前...

昭和36年の秋田国体が縁で今も他県の人と交流があるかたの思い出を紹介します。「まごころ」がつまったあなたのお話を聞かせてください。

秋田市国体準備室TEL(866)2830



マスゲームの衣裳を手にした渡辺さん。
「開会式の晴天は忘れません」

素敵なお出合い。 きっかけは「相場」と「愛葉」

渡辺アヤ子さん(61歳・土崎)

渡辺さんは、当時高校三年生。「秋田まごころ」国体でライフル射撃競技の補助員を務めました。
「会場では、雑用などのお手伝いをしました。ライフル射撃の会場が飯島だったので、秋田駅からバスに乗って出かけた思い出があります。国体関係者には、バスの優待乗車券が配られたんで

す」と、当時のバス券を見せてくれました。
その他にも、補助員の名札、開会式のマスゲームで踊ったときに着た衣裳などを大事にしています。
そんな渡辺さんには、もう一つ大切な思い出が...
「私の旧姓は、相場というんですが、ライフル射撃の大阪代表の学生さんに、『愛葉』さんというかたがいたんです。名字が同じなのも何かの縁。国体期間中、親しくさせてもらいました」と渡辺さん。当時大学三年生の



思い出の品々。愛葉さんからの手紙も大事にしています。

愛葉さんとは、国体が終わってから、四年間は文通で親交を深めました。渡辺さんの結婚を機に交流が途絶えました。

「連絡を取らなくなって三十年目の平成七年に阪神大震災が起きたでしょう。何よりも愛葉さんの安否が気がかりでした。でも、所在を確かめる手段がなく」と半分あきらめていた渡辺さん。しかし、昨年、市の国体準備室の協力もあり、仕事の関係で愛知県名古屋に住んでいた愛葉さんと連絡をとることができました。

渡辺さんは、「電話に出た愛葉さんもびっくりしていました。昔の話に花が咲いて懐かしかったです。機会があればまたお会いしたいです」とニコリ。
すてきな出会いがあった「秋田まごころ」国体。平成十九年のわか杉国体でも「何かお手伝いしたい」と話してくれました。